

科目名	DTM実習		担当講師	作山 厚	
講師実務経験	DTM・ベース講師経験 / 楽曲配信・BGMサイト楽曲提供				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース		授業形態
期 間	後期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	DAWソフトを使用した楽曲制作・アレンジの基礎を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月27日	音楽理論とアレンジ①			
2	12月4日	音楽理論とアレンジ②			
3	12月11日	音楽理論とアレンジ③			
4	1月22日	音楽理論とアレンジ④			
5	1月29日	音楽理論とアレンジ⑤			
6	2月5日	音楽理論とアレンジ⑥			
評価方法	作品提出評価(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:C				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	18時間中 7時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	REC実習		担当講師	金沢琢司	
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース		授業形態
期 間	後期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
前期	スタジオシステムの信号の流れ、機材の仕組みを理解し、操作技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月28日	調整卓センターコンソールの概要①			
2	11月30日	調整卓センターコンソールの概要②			
3	12月5日	調整卓チャンネルイコライザーの概要①			
4	12月7日	調整卓チャンネルイコライザーの概要②			
5	12月12日	調整卓パッチベイの概要①			
6	12月14日	調整卓パッチベイの概要②			
7	1月18日	調整卓エフェクトインサート概要①			
8	1月23日	調整卓エフェクトインサート概要②			
9	1月25日	スタジオ録音①(ドラム録音のための基本セッティング)			
10	1月30日	スタジオ録音②(ドラム録音のための基本セッティング)			
11	2月1日	スタジオ録音③(ベース録音のための基本セッティング)			
12	2月6日	スタジオ録音④(ギター録音のための基本セッティング)			
13	2月8日	スタジオ録音⑤(ボーカル録音のための基本セッティング)			
14	2月13日	トラックダウンの概要①(アウトボードの使い方)			
15	2月15日	トラックダウンの概要②(イコライザーのポイント)			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	45時間中 16時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	ラジオ実習(2班交代制)		担当講師	八幡淳	
講師実務経験	FM NORTH WAVE、AIR-G'、HBCラジオ、STVラジオでパーソナリティ、コミュニティFM(エフエムアップル、FMおたる)での番組制作				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース		授業形態
期 間	後期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	制作の意図を理解した上で、基礎力を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月28日	ラジオとは? : 公共性を学ぶ			
2	12月5日	ラジオの存在意義: 有益な番組作りとは?			
3	12月12日	音を操る			
4	1月23日	人間心理に基づいた番組制作、制作番組検聴			
5	1月30日	音楽番組/音楽番組は「音楽の垂れ流し」ではないことを学ぶ。			
6	2月6日	制作番組の検聴。			
7	2月13日	レポート番組/自らの経験を番組に生かす。同制作番組の検聴。			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
	成績評価方法: B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	21時間中 8時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	MA実習		担当講師	田莉子和之	
講師実務経験	音楽・番組制作会社勤務				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース		授業形態
期 間	後期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	MA作業の理解と、付随する特殊用語の習熟、及び、音声・映像に関する知識を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月29日	授業ガイダンス／MA作業準備			
2	12月6日	整音について			
3	12月13日	ナレーション・アフレコ・音楽・効果音の仕込み(1)			
4	1月24日	実技習得度判定試験対策について			
5	1月31日	ナレーション・アフレコ・音楽・効果音の仕込み(2)			
6	2月7日	実技習得度判定試験			
7	2月14日	定期試験対策／まとめ			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	21時間中 8時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	ProTools実習Ⅱ			担当講師	金沢琢司
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース/作曲・DTMコース	授業形態	実習
期 間	後期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間	135 分
修 得 目 標	ProToolsの応用についての知識を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月29日	ProTools実践1 ミックスの進め方①			
2	12月6日	ProTools実践2 ミックスの進め方②			
3	12月13日	ProTools実践3 録音素材のエディット基礎①			
4	1月24日	ProTools実践4 録音素材のエディット基礎②			
5	1月31日	ProTools実践5 マスターフェーダを使用しないミックス基礎①			
6	2月7日	ProTools実践5 マスターフェーダを使用しないミックス基礎②			
7	2月14日	ProToolsを使ったマスタリングの概要			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	21時間中 8時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	放送音声		担当講師	種田俊二	
講師実務経験	元放送局勤務				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンド		授業形態
期 間	後期	総授業回数	8 回	1回あたりの授業時間	
				45	分
修 得 目 標	放送(映像作品)における「音声」の重要性を理解し、基礎知識を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月30日	授業ガイダンス 音声の重要性について①			
2	12月7日	音声の重要性について②			
3	12月14日	音と音声信号の基礎知識			
4	1月18日	バランスとアンバランスについて			
5	1月25日	マイクの基礎知識①			
6	2月1日	マイクの基礎知識②			
7	2月8日	レベルメーターの種類と原理			
8	2月15日	総復習・試験対策			
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	8時間中 3時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	音楽研究		担当講師	永盛 岳生	
講師実務経験	自身のバンドにて音楽レーベルよりデビュー。アーティスト専属契約。TV、CM楽曲タイアップ等。				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース		授業形態
期 間	後期	総授業回数	8 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	音楽及びポップカルチャー全体を体系的に捉える事で社会と音楽文化の変化を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	11月30日	授業ガイダンス			
2	12月7日	ポップミュージックの歴史と文化的背景			
3	12月14日	ポップミュージックの技術とプロダクション、ヒット曲分析			
4	1月18日	音楽と映像表現・映画史から学ぶポピュラカルチャーについて			
5	1月25日	音楽と映像表現・ミュージックビデオから学ぶ音楽産業の進化			
6	2月1日	ポップミュージックと社会問題			
7	2月8日	ポピュラカルチャーとジャーナリズム			
8	2月15日	まとめとテスト対策			
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	16時間中 6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	SR技術概論Ⅱ		担当講師	森本 信		
講師実務経験	レコーディングエンジニア・サウンドデザイナー・ミュージックディレクター・プロダクション&アーティストマネジメントほか					
対象学年	1	学年	対象コース	スタジオサウンドコース 作曲・DTMコース		授業形態 講義
期間	後期	総授業回数	8	回	1回あたりの授業時間	135 分
修得目標	スタジオ録音・音楽業界のシステムを習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	12月1日	後期講義内容ガイダンス、音楽業界のシステム／演習問題小テスト				
2	12月8日	音楽業界の歴史とビジネス／演習問題小テスト				
3	12月15日	音響学音響物理基礎の復習とアドバンス／演習問題小テスト				
4	1月19日	電気音響の復習とアドバンス／演習問題小テスト				
5	1月26日	録音手法の復習とアドバンス／演習問題小テスト				
6	2月2日	ミキシング概論など／演習問題小テスト				
7	2月9日	次世代音響システム／演習問題小テスト				
8	2月16日	JAPRS検定試験対策と年間まとめ				
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A					
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト	JAPRSサウンドレコーディング技術概論、					
注意事項	24時間中 9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名	時事研究		担当講師	山田 佳晴	
講師実務経験	ニュース・時事問題を読み解き、日常生活の思考・行動に活用する力を修得する。				
対象学年	1 学年	対象コース	スタッフ関連科目受講者		授業形態
期 間	前期	総授業回数	8 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	ニュース・時事問題を読み解くことで、日常生活の思考・行動への活用法を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	12月1日	直近のニュースについて①			
2	12月8日	直近のニュースについて②			
3	12月15日	直近のニュースについて③			
4	1月19日	直近のニュースについて④			
5	1月26日	直近のニュースについて⑤			
6	2月2日	直近のニュースについて⑥			
7	2月9日	直近のニュースについて⑦			
8	2月16日	講義振り返り、試験対策			
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	無し				
注意事項	8時間中3時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	就職ガイダンス		担当講師	一岡 永	
講師実務経験	音響会社勤務				
対象学年	1 学年	対象コース	就職対象専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	8 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	企業情報の収集、就職活動計画や応募書類等、就職活動準備方法を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	12月1日	就職用写真の撮影準備について			
2	12月8日	自己PR作成のポイント(応募用)			
3	12月15日	志望動機作成のポイント(応募用)			
4	1月19日	エントリーシートの質問項目と解答例			
5	1月26日	応募条件について考える			
6	2月2日	過去求人の紹介/応募企業の選定			
7	2月9日	面接対策			
8	2月16日	春休み中に出来る事/3月の求人公開に向けて			
評価方法	2/3以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト	無し				
注意事項	8時間中3時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	イベント実践(K-1ライブ前)		担当講師	金沢 琢司・作山 厚・永盛 岳生	
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務(金沢 琢司)、DTM講師(作山 厚) アーティスト専属契約(永盛 岳生)				
対象学年	1 学年	対象コース	スタジオサウンドコース		授業形態
期 間	後期	総授業回数	28 回	1回あたりの授業時間	
				270 分	
修 得 目 標	K-1ライブの実施を通して、《ライブに必要なレコーディング基礎を修得する。》 全てのコースを同時に準備を進め、セクションを跨いだコミュニケーション力を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月10日	K-1ライブに向けたレコーディング①			
2	10月11日	K-1ライブに向けたレコーディング②			
3	10月12日	K-1ライブに向けたレコーディング③			
4	10月13日	K-1ライブに向けたレコーディング④			
5	10月16日	K-1ライブに向けたレコーディング⑤			
6	10月17日	K-1ライブに向けたレコーディング⑥			
7	10月18日	K-1ライブに向けたレコーディング⑦			
8	10月19日	K-1ライブに向けたレコーディング⑧			
9	10月20日	K-1ライブに向けたレコーディング⑨			
10	10月23日	K-1ライブに向けたレコーディング⑩			
11	10月24日	K-1ライブに向けたレコーディング⑪			
12	10月25日	K-1ライブに向けたレコーディング⑫			
13	10月26日	K-1ライブに向けたレコーディング⑬			
14	10月27日	K-1ライブに向けたレコーディング⑭			
15	10月30日	K-1ライブに向けたレコーディング⑮			
16	10月31日	K-1ライブに向けたレコーディング⑯			
17	11月1日	K-1ライブに向けたレコーディング⑰			
18	11月2日	K-1ライブに向けたレコーディング⑱			
19	11月6日	K-1ライブに向けたレコーディング⑲			
20	11月7日	K-1ライブに向けたレコーディング⑳			
21	11月8日	K-1ライブに向けたレコーディング㉑			
22	11月9日	K-1ライブに向けたレコーディング㉒			
23	11月10日	K-1ライブに向けたレコーディング㉓			
24	11月13日	K-1ライブに向けたレコーディング㉔			
25	11月14日	K-1ライブに向けたレコーディング㉕			
26	11月15日	K-1ライブに向けたレコーディング㉖			
27	11月16日	K-1ライブに向けたレコーディング㉗			
28	11月17日	K-1ライブに向けたレコーディング㉘			
評価方法	2/3以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト					
注意事項	168時間中 57時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				